

インドネシアのバリ島に行つた。家族共々、バリ島が大好きでリピーターである。大抵のビーチはよく知っているので、今回、島に渡つてダイビングすることにした。

すると、ある異変が起つていて……。

尖閣問題以降、日本には来てくれなくなつた中国人観光客が、大挙して島に押し寄せていた。シュノーケリングやスキンダイビングのツアーの8割は大陸から来た観光客だつた。マナーが悪くて煩く、静かな離島のビーチをイメージしていたが、江ノ島並みに混雑して参つた。おまけに埠頭では法輪功の団体まで騒いでいた。

他の東南アジアと同じく、インドネシアにも多くの華僑が渡つていて、インドネシアには、福建省から渡つてきた人が多い。一方、マレーシアやタイでは広東省出身者が多い。福建人と広東人は何かにつけて仲が悪いが、海外に出た華僑の中でもしつくりこないようだ。

よく「北京愛國」、「上海出國」、「廣東亮國」と言うが、広東人は「福建亡國」だと言つて憚らない。福建人が通つた後はベンパン草も生えないといふ放題である。習近平氏は福建省の幹部歴が長く（省長4年を含む17年）、福建華僑との関係が深い。福建華僑は客家であり、李光耀（リー・クアンユー）氏やインドネシア華僑の大富豪、ジユハル・スタント（林文鏡）氏や故ストノ・サリム（林紹良）が代表である。

習近平氏は彼ら客家華僑との緊密な仲を

通じて、福建省経済を躍進させた。彼の国家主席就任の背景は華僑コネクションにあると言つても過言ではない。

JKT48並みの活躍を安倍首相にも期待する

バリ旅行には毎回良い思い出があるが、今回も良いドライバーさんと親しくなつた。バリ島に来ていつも感じるのは日本人が大変好かれていることだ。対日感情がなぜ良いのかを聞いた。彼は日本語ガイドも兼ねているので歴史に詳しく、インドネシアの独立運動の話をしてくれた。太平洋戦争終結後、玉音放送を聞いた日本軍の将兵がインドネシアに残つて、インドネシアの独立

戦争に参加したというのだ。2000人の日本人将兵が、インドネシア兵に交ざつてオランダからの独立を戦い抜いた。祖国は敗戦で戦争が終わつたのに印度ネシア独立のために戦い、多くの命が独立戦争で散つたという。

当時の事情とその理由を知る由もなかつたが、天皇陛下が終戦の際に「日本と共に東アジアの解放に協力してくれた盟邦に対して済まなく思う」との玉音放送を聞いた将兵たちが自ら進んでとつた行動である。インドネシア人は、一緒に戦つてくれた日本人を心から尊敬し信頼しているという。

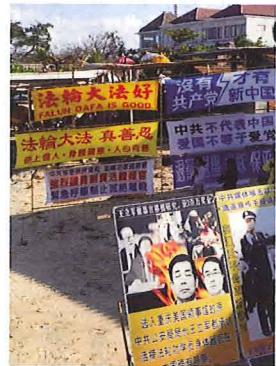
（なかむら・しげお）1947年生まれ。レアメタル専門商社・アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長。新著に『レアメタルハンター・中村繁夫のあなた』の仕事を成功に導く「山師の兵法A to Z』（ウェッジ）。



AROUND THE WORLD

山師の手帳 第22回 中村繁夫

インドネシアに息づく日本人救世主伝説



もう一つ面白いエピソードがインドネシアに古くから伝わる「ジョヨボヨ王の予言」という伝承である。「我らの王国は白い人々に支配される。彼らは離れたところから攻撃をする魔法の杖を持っている。白い人々からの支配が長く続くが、空から黄色い人がやってきて白い人々を追い払ってくれる。この黄色い人も我らの王国を支配するがトウモロコシの寿命と同じくらいの期間しか居ない」。この伝承は12世紀の東ジャワのジョヨボヨ王の書いた「バラタユダ」という民族の叙事詩にある一節であるが、印度ネシアの人々は350年間も支配したオランダから日本軍が解放してくれたことを感謝しているのである。

今年のバリは建設ラッシュである。10月にはAPECがあるのでデンパサールのングラライ空港もAPEC会場へのバイパス道路の整備も急ピッチだ。今回のAPECはTPPの参加を議論する場であるが、アセアンにおける日本の存在感を示す場所もある。JKT48はインドネシア人に受け入れられて大人気である。今回のAPECでは我が安倍晋三首相が大活躍することを心から期待している。